

大阪錫器 株式会社

伝統的工芸品、錫器を製造
伝統だけにとらわれず
斬新な製品を提案

ろくろを回し削りながら形を整える【切削工程】。職人の絶妙な手加減が作品を生み出す

伝統工芸『大阪浪華錫器』
技術を守り、活かし続ける

江戸時代後期の創業以来、一貫して錫製品を製造してきた大阪錫器。昭和58年に通産大臣（現経済産業大臣）より伝統的工芸品『大阪浪華錫器』の指定を受け、手作りで生み出すその製品の品質は、数々の受賞歴を誇る伝統工芸士を輩出する等高く評価されている。

古来より神酒徳利、神仏器具等ごく一部のみに愛用されていた錫器は、江戸時代には広く一般に使用されるようになり、時代を経ても色あせることなく今日まで受け継がれてきた。「伝統とは、昔からあるもの、古いものと思われるかもしれませんが、しかし多くの伝統工芸品が姿を消している中、錫器が現代まで受け継がれているのは、作り手の時代に対応できる柔軟な考え方と、新たなものを生み出せる技術力があつたからこそ」と今井社長。その言葉通り、常に生活様式の変化等に敏感に反応し、昔なじみの茶器や和酒器と平行して、食器、コップ、ワインカップ、洋酒器等の製造に取り組んできた。さらに進物品、記念品としても幅広く活用すべく、研鑽された技術力だけでなく、さまざまなアイデアを駆使して生み出している。そのひとつが、平成16年の高校総体に使われたメダル。開催地である大阪を代表する伝統工芸として、全国にアピールすることとなった。

斬新な商品開発力が強み
それを支えるのは
若手職人の創造力

同社の強みは、このように伝統的な技術を守りながらも斬新な製品を生み出す



上燗徳利と上燗コップのセット

していることだ。その背景には、積極的な若手職人育成がある。これは、伝統技術を継承するということだけでなく、若手職人ならではの新鮮な意見やアイデアをもとに、時代のニーズにあった商品を生み出すという相乗効果を発揮しているのだ。

例えば、手作り一点ものである錫器製品のサンプルを造り上げるのは容易ではない。しかし、若手職人達は、コンピューターで3D化した画像を制作し、効率よく新商品の提案を行う等、よりフレキシブルに新たな販路を開拓している。最近では、ビールメーカーの社名やロゴ・イラストをコンピューターグラフィックで錫器表面に浮かび上がらせたビールジョッキを提案し、好評を博した。また、本黒漆塗りを使ったLED照明や、同じ伝統工芸品である『大阪唐木指物』と開発した『ゼブラシリーズ』等、異素材とのコラボレーションも積極的に取り組み、デザイン性の高い製品を生み出している。

伝統技術で何でも作ってみせる。そして、次代を創造し続けていく。そんな攻守双方を持ち合わせていることが、錫器シェア全国65%を誇る同社の魅力だ。

Company Profile

大阪錫器株式会社

住 所 〒546-0031
大阪市東住吉区田辺6-6-15
TEL 06-6628-6731
FAX 06-6628-6735
設 立 昭和24年12月25日
資本金 1,000万円
従業員 27名
代表取締役 今井 達昌

■主な事業内容
錫器の製造、販売

■主な取引先
食器販売、贈呈品販売、
教育事業会社 等

<http://www.osakasuzuki.co.jp>

他社には
負けない

当社のものづくり
セールスポイント

伝統的技術を活かし
お客様のニーズに何でも応えます

代表取締役 今井 達昌 さん



伝統的な技術を守りながら、すべて手作業で製造しています。一方、伝統ばかりにとらわれず、時代のニーズにあった商品開発に取り組み、お客様からのご要望に対応。一点物から量産品まで、何でも制作可能ですので、ぜひご用命ください。